

# 木橋から鉄橋への移行

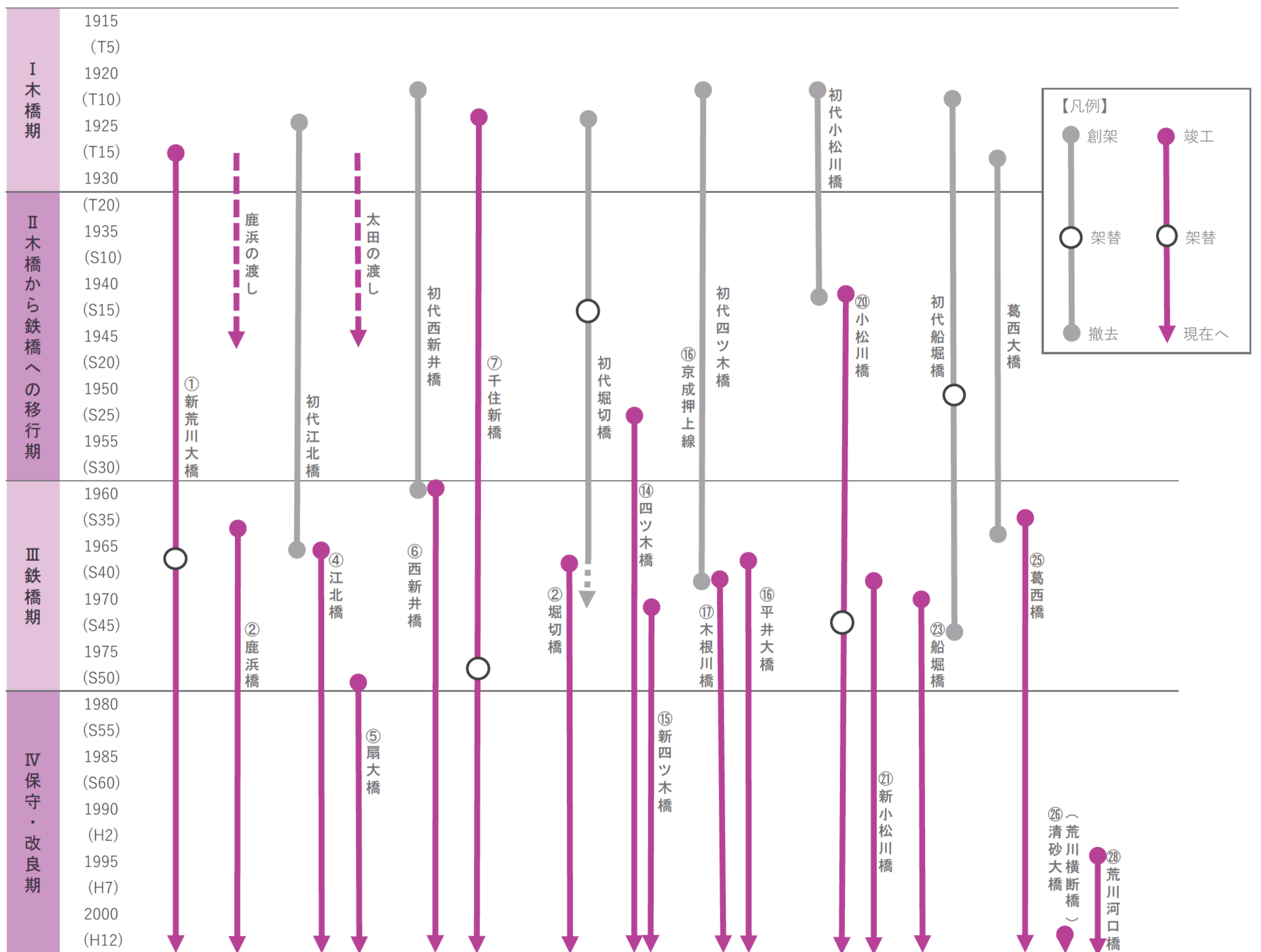
荒川放水路開削工事とともに建設された橋の多くは木で作られた木橋でした。その後、自動車などの交通量の増加とともに、幅の広い橋が必要になり、木橋から鋼橋に変わっていきました。昭和25年に架け替えられた船堀橋は、荒川放水路の区間で最後に残る木橋でした。この木橋が解体撤去される際は、地元から反対の声が多くありました。



初代堀切橋の解体撤去  
(出典) 足立区立郷土資料館収蔵資料データベース



千住新橋の架替工事  
(出典) 足立区立郷土資料館収蔵資料データベース



注：左側を上流側とし、架設位置順に並んでいる。

荒川下流橋梁群の時期別・位置順バーチャート  
(出典) 荒川下流誌